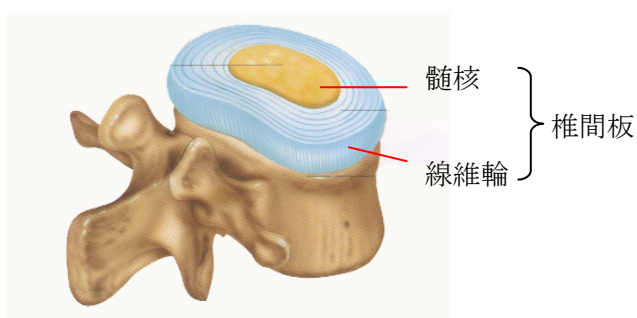


椎間板の役割と特徴

椎間板とは非常に水分が多い組織です。やわらかいゲル状の組織で、衝撃を和らげるクッション、座布団のような働きをしています。これがないと、骨と骨がガツンと当たって、痛くてしょうがない、あるいは動きが悪くなってしまいます。椎間板が少しずつ変形して動くことによって、体を動かしたり、加重を和らげたりすることができるわけです。先ほどお話ししたように、椎間板が80%の加重を支えています。だから無理な加重が加わると、椎間板に直接衝撃が加わることになります。



椎間板は、お饅頭で言えば中のあんこ、クッションで言えば綿に相当する部分、これを髄核といって、この部分が柔らかいです。それを、クッションの周りのお布団のカバーに相当する線維輪という部分があります。髄核と線維輪をあわせて椎間板というのですが、年をとったり、衝撃が加わったりすると、この線維輪が破れることがあります。破れてしまうと中の髄核、これは柔らかいので、おまんじゅうを潰すとあんこが出てきてしまうように、この髄核が飛び出してきてしまうんですね。それが、椎間板ヘルニアという状態です。椎間板ヘルニアは、飛び出してしまうと、場合によってはその後ろにある神経を傷つけて、坐骨神経痛や麻痺などの症状がでてくることがあります。